



グローバル化と大学(下)

特集 1

P2~P6

2015年度第3回FD・SD研修会「グローバル推進セミナー」開催

中東・アラブ・イスラムの世界
そこが知りたい!

- 中東・アラブ・イスラムの定義
- アラブ人のアイデンティティ
- アラブ人のマインド、行動パターン
- アラブ人留学生に対するイメージ
- アラブ人留学生からのイメージ
- Q&A

特集 2

P7

大学教育グローバル化短期集中教員研修プログラム 開催

- CLILとは
- 本研修プログラムの特徴
- 参加者から寄せられた感想

本学では、グローバル化に対応した質の高い教育を展開するため、国際部・国際教育センターと共催し、2015年度第3回FD・SD研修会「グローバル推進セミナー」を開催いたしました。

現在、本学には約150名の中東地域からの留学生をはじめ、多くのイスラム圏出身の学生や研究者が在籍しており、交流を深めるためにもアラブ・イスラム文化への理解を深める必要があります。

今回の研修会では、アラブ・イスラムの専門家である本学国際教育センター准教授のアブドゥラ アルモーメン先生に、多角的な視点で中東の情勢、イスラム圏の行動様式、ものの考え方等を解説いただきました。

また本学では、大学教育のグローバル化の一環として、教員のグローバル教育力強化を図ることを目的に短期研修プログラム「Content and Language Integrated Learning (CLIL)」を実施いたしました。講師は、本学の協定校であるクイーンズランド大学(オーストラリア)の英語教育機関「ICTE」からお招きいたしました。

本プログラムは2012年度より毎年開催しており、授業における教材の選択、言葉の選択、流れ、思考力の育成方法等を学び、効率的な講義の組み立てに非常に役立つプログラムです。受講者からも「授業構築のスキルやヒントを豊富に習得できた」と毎年ご好評をいただいております。

今号は、「2015年度第3回FD・SD研修会 グローバル推進セミナー」および「2015年度大学教育グローバル化短期集中教員研修プログラム」の内容を掲載いたします。



中東・アラブ・イスラムの世界 そこが知りたい！

アブドーラ アルモーメン 准教授（本学国際教育センター）

2015年度第3回FD・SD研修会「グローバル推進セミナー」（2015年12月22日開催）より



アブドーラ アルモーメン
准教授

教育支援センターと国際部・国際教育センターは、2015年12月22日に本学国際教育センターのアブドーラ アルモーメン 准教授を講師にお招きし、2015年度第3回FD・SD研修会「グローバル推進セミナー」を開催しました。当日はテレビ会議システムで本学の7キャンパスおよび福岡短大にも配信し、73名の教職員が参加しました。

国際教育センターのアルモーメンです。今日はタイトルのとおり、「私が伝えたいこと」よりも「皆さんが知りたいこと」に私が答えていくようなスタイルで、皆さんが本当に知りたいこと、普段疑問に思っていること、あるいはどこかで読んで改めて確認したいことなど、中東とアラブ、イスラムの世界について、記憶に残るような話をしたいと思います。

今日のキーワードは、「視点」と「行動パターン」です。私自身、アラブ人であり、エジプト人であり、イスラム教徒であるという複合的なアイデンティティを持っていますので、当事者の立場から、「アラブの視点」、ひいては「留学生の視点」をお伝えしていきます。

いま連日のように話題が絶えない中東とイスラムですが、この地域から東海大学に留学している学生は、アラブ地域だけでも約150名います。イスラム教の国に範囲を広げると、約200名です。サウジアラビア、UAE、オマーン、カタール、クウェート、エジプトなど、これだけ多様なアラブの国々から多くの留学生が集まる大学は、自信を持って東海大学しかないと言えます。なぜ中東から多くの留学生が集まるのか、集まった留学生は実際に学修面や生活面でどのような状況にあるのかについて、学外からも非常に高い関心を持たれています。

■中東・アラブ・イスラムの定義

「中東・アラブ・イスラム」の3つの言葉について、日本人はこれらを重ねて連想しているようです。実際、重なっている部分もちろんありますが、この区別はとても大切だと思いますので、ここから説明します。

まず、「アラブ」とは何でしょうか？アラブというの

は国ではないし、民族といってしまうと血統的にはおそらくアラビア半島あたりに限られてしまいます。アラブの範囲というのは実はとても広く、北アフリカの



(図1)「アラブ世界」の主な国々

モロッコ、モーリタニアあたりから、西アジアのオマーンあたりまで、非常に広い範囲を指し、「アラブ世界」と呼びます(図1)。この「アラブ世界」の一番正しい定義は、「アラビア語が話せる地域」です。アラビア語を話せる人口は現在、3億人近くいると言われていています。ただし、アラビア語を話せる地域というのは、「アラブ世界」だけではありません。例えば、先日大変痛ましい事件(2015年11月13日パリ同時多発テロ事件)が起きたフランスでは、アラブ系のルーツを持つフランス人が500~700万人いると言われており、当然そのコミュニティではアラビア語が通じます。ちなみに、アラビア語にもいろいろあるのではという疑問があるかもしれませんが、アラビア語には標準語的な、正則アラビア語というものがあります。ですから、もちろん方言はありますが、正則アラビア語を使えば、この3億人がコミュニケーションできるということです。

ここに、「イスラム教」という言葉が加わると、さらに範囲が広がります。アラビア語が母語、あるいは公用語の国だけではなく、アラビア語を話さない国でも「イスラム世界」になるわけです。いま世界でイスラム教徒は約16億人いると言われ、およそ4人に1人がイスラム教徒という計算になります。そしてこれから、この人数はさらに多くなると予想されています。いま、世界の人口の23%を占めるイスラム教徒ですが、次の20年間で32%まで増え、キリスト教と逆転すると言われていています。このイスラム教が、先ほどのアラブとどうつながるかということですが、アラブの定義は「アラビア語」が話せる地域でした。そして、イスラム教の言語は「アラビア語」です。つまりイスラム教はアラビア語なしでは語れない宗教であり、ここでつながります。注目していただきたいのは、言語的な影響についてです。言語と

というのは思考を規定し、思考は行動パターンに影響します。言語というものは、決して軽視できない要素です。

ちなみに「イスラム」と皆さんが見聞きしたときに、どんなイメージがありますか？大学の授業でこの質問をすると、あまり良いイメージは返ってきません。マイナスイメージが圧倒的で、潜在的にいわゆるイスラム・フォビア(嫌悪)というものが存在しています。イスラム教は、世界の文化の中で絶大な影響力を持っていると同時に、周りの世界からはあまり良く思われていないという状況が混在しており、その下でいろいろな摩擦が起き、結果的には悲しい事件につながってしまうこともあります。

最後に「中東」という言葉は、アラブ人が考えた言葉ではなく、ヨーロッパから押し付けられた概念です。日本の「極東」もそうですが、これは極めて地政学的な言葉です。

■アラブ人のアイデンティティ

アラブ人がアラビア語を話せる人たちだということはすでに確認しましたが、彼らはどんなアイデンティティを持っているのでしょうか。

まずは「宗教的なアイデンティティ」です。アラブ人の宗教はもちろん圧倒的にイスラム教徒が多いのですが、元々はイスラム教徒だけではありませんでした。例えば、エジプトはもとはキリスト教の国でしたし、現在もレバノンという国では、国民の半数はキリスト教徒です。このように、少数ではありますが、イスラム教以外の宗教も文化的には存在しています。また、イスラム教の中にも宗派というものがあります。本来のイスラム教の教えでは宗派は存在しませんが、いろいろな権力や地域の争いの中で宗派というものが生まれ、スンニ派とシーア派、さらに細かい宗派に分かれています。

そして、「民族的なアイデンティティ」や「地域的なアイデンティティ」。これはどういうことかということ、まず、3億人のアラブ人が構成する全アラブ世界の一員としてのアイデンティティがあります。アラビア語から説明すると、arabiという言葉があり、そのarabiのもとで同胞感を抱いています。その一方で、「地域的なアイデンティティ」、すなわち国民の一人としてのアイデンティティもあります。サウジアラビアやエジプトなど、それぞれの国や地域に属したアイデンティティです。

つまり私の場合は、「イスラム教徒、アラブ人、エジプト人」というアイデンティティになります。何が言いたいかというと、同じアラブ人の中でも、例えば私とサウジアラビアの人では、共通する部分もあれば、異なる部分も当然あるということです。例えば、風土について、アラビア半島の気候・風土は当然エジプトともモロッコとも違います。アラビア語という文化レベルではかなりつながりがありますが、風土的な部分や経済的状

況では違いが当然発生します。

このように、皆さんが普段、大学の中で接しているアラブ人たちも、「アラブ人」と一口には括れないのです。生まれ育った環境などによっては、見方や視点、発想というものも変わります。また、「あなたはイスラム教徒だから・・・」と皆さん簡単に言いますが、それも一様ではありません。どういうことかということ、イスラム教の基本的な教えを皆が実行していれば皆同じになりますが、生活の中で温度差というものがあります。つまり、イスラム教本来の教えと、実際のイスラム教徒の生活の間には、実はかなりのギャップがあります。ですから、なんでも「イスラム教」というひとつの切り口で相手を評価しようとしても、正しい判断はできないと私は思います。学生によって、アラブ人のアイデンティティを大事にする人もいれば、イスラム教徒としてのアイデンティティを大事にする人もおり、アイデンティティの構成的な順番あるいは割合も人によって異なります。私も学生を扱うときには、個別に一人ひとり、イスラムやアラブという概念だけではなく、その人の生まれ育った状況や背景的なものなどを考慮し、学生とコミュニケーションをとりながら接しています。

■アラブ人のマインド、行動パターン

●信頼を作る

アラブ人にとって、「信頼を作る」ということはとても大事なことです。どうやって信頼を作るかということ、まず人と話す、コミュニケーションをとることです。皆さん、留学生の一番の悩みは何かご存知ですか？話す相手があまりいないということ。思っていたほど日本人はあまり話さないし、相手にしてくれない。しかし、アラブ人的な発想では、相手とコミュニケーションをとらなければ、信頼は生まれません。アラブ人、イスラム教徒も含め、今かなりの数の留学生が東海大学にはいますが、私たち教職員はどれだけ彼らと接しているのでしょうか。本学でもグローバル化が謳われていますが、まずはキャンパスの中の多国籍的な、しかもなかなか出会えない国籍の方との交流が、まだまだ限られていると思っています。

●伝統に従う

アラブ社会は比較的自由度が少ないです。これは、イスラム教だけの影響ではありません。例えばサウジアラビアの砂漠地帯にはベドウィンと呼ばれる遊牧民がいます。彼らは伝統に非常に厳しい社会を築き、むしろイスラム教によってそれが緩和されたほどです。なので、伝統または伝統に従う度合いは風土によって異なりますが、どの社会でも伝統に従っている、あるいは伝統に従いたいと思っています。この辺りは日本とも通じることだと思います。

● 忠誠を重んじる

アラブ人にとって、とても大切な感覚のひとつです。

● 情を持つ

アラブ人は非常に情が深い人たちです。そして、相手に対してとても期待感を持ちます。自分のコミュニティやその周りに対して、期待感でいっぱいなのです。当然、先生にも期待感を持っています。期待感を持つということは、逆に自分が期待されるということも発生します。留学生にとって、この期待感が満たされるということはなかなか難しいのが現状です。

● 宗教心を支えにする

宗教という言葉について、おそらく日本ではほぼマイナスイメージで捉えられます。一方アラブでは、生活の一部であるだけでなく、ものの判断、人との関係、すべてにおいて宗教が非常に大きな存在になります。ただ、それを守るか守らないかは別の話です。日本人は「宗教の教えを人々は当然守っているはずだ」と考えますが、そうとも限りません。守る人もいれば、守らない人もいるということです。それでも、精神的な意味では宗教はとても大切なものです。その意味では、東海大学(湘南校舎)はイスラム教徒の学生に礼拝所を提供しており、宗教心を支えにするための助けをしていると思います。

■ アラブ人留学生に対するイメージ

皆さんは、アラブ人留学生に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか。おそらく、時間にルーズ、熱心でない、日本語力がない、社交的な性格、お金持ちで裕福、ルールを守らない、理数科目の力が弱いなどのイメージを持っていると思います。

まず、「日本語力がない」というところに注目してください。彼らは、日本の法律で日本語を2年間しか勉強できません。さて、2年間だけで日本語をマスターできるのでしょうか。私の言語学研究的専門的立場からお答えしますが、できません。もちろん非常にタフな学生の中にはいますが、日本の文化を吸収し、日本語を覚え、理数科目も勉強し、生活管理もできるというように、そこまで留学生に期待するのは非常にハードルの高い話です。実際、2年間で日本語能力を鍛える手法をいま改めて考え直さなければいけないということで、いろいろな試みが行われていますが、あまり成果は出ていません。

次に、「社交的な性格」。留学生は皆さんと友達になりたいのですが、皆さんは廊下で会ったときに挨拶すらしてくれません。アラブ人の挨拶のパターンですが、朝会ったときに「お元気ですか？」と握手をして一回挨拶したとします。その後、10分後に会ったときも、「お元気ですか？」と再度握手しますし、さらに30分後に会っても「お元気ですか？」と握手します。このように、常に相手と言葉でつながりたいと考えています。私自身も他の先生方に足を止めて挨拶をしたいときに、

時々皆さん忙しくて、目も合わされないということがあると、とても悲しくなってしまう。もちろん同じようにやってほしいということではありませんが、せめて彼らの気持ち、視点というものを少しでも理解してもらえればと思います。

その他の性格的な特徴として、アラブ人は、自慢しがら、誇張するという部分があります。一見マイナスに聞こえるかもしれませんが、アラブでは対等に自分をアピールしないと生きていけない社会です。プラスに考えると、気持ちの面では非常に頑張りたいと思っています。我々も、彼らには日本で鍛えられ、将来的にその国、あるいはその地域の第一線で、東海大学卒業の看板を背負って活躍してくれたらと願っていますし、そういう人は実際少なくありません。

「お金持ちで裕福な生活」とありますが、先ほど申し上げたようにアラブというのはいろんな社会があります。経済状況も様々です。例えばカタールからの留学生は、かなりの高額な奨学金をもらって留学している場合もあります。カタールの金銭的な感覚を持って、留学生たちはここ日本で生きています。祖国を離れても、家族のこと、お金のこと、銀行の諸々のこと、ローンのことなどから切り離された生活をしているわけではありません。実は、湾岸地域のほとんどの国民は、銀行からローンを借りています。だから経済状況としては、裕福ではないのです。裕福に見えているとしたら、見せかけだと思います。

「理数科目が弱い」について、例えばサウジアラビアは、教育レベルが全般的に低い国です。特に、理数科目の教育については非常に悩んでいる国でもあります。つまり、学生たちはハンディを持って入ってきているのです。カリキュラム的な面では、2年間ほどギャップがあります。この2年間の遅れを、今度は日本語を使って勉強しなくてははいけません。皆ができて当然という前提では、とても厳しいと思います。

これらの特徴を持つ彼らを、どう指導し、日本的な時間管理や、真面目な生活、人間関係の上手なコントロールなどを身につけさせていくかは、大学全体で考えなければいけないと思います。



■多文化共生キャンパスを作るためには

多文化共生のキャンパスをつくる方法を考えよう！

- A) 学内でいろいろな国の言葉で対応できる相談窓口を作ること。
- B) 各学科で言葉や生活習慣の違いで困っている人を助ける担当者の設置、留学生相談室の設置など。
- C) ウェブサイトや掲示板等を利用して、いろいろな国の言葉で学内や学習に関する情報を流すこと。
- D) 学内外（周辺地域など）の「国際理解教育」に力を入れること。
- E) 学内の身近なところにいる国籍や文化の違う人と友達になること。
- F) 国際交流のイベントの機会を増やすこと。
- G) 言語や文化のハードルが低い指導方法や授業サポートを開発・工夫すること。
- H) 日本語教育の強化とともに、自分の文化に誇りを持ち、自分らしく、のびのびとキャンパスライフを送られるようにすること。
- I) いろいろな国の言葉で対応できるチューターやTAのシステム導入。

(図2)多文化共生のキャンパスを実現させるための取り組み

そこで、多文化共生キャンパスを作る方法として知られている9つの例(図2)について、どのような順番で優先順位をつければ良いのか、ぜひ皆さんに考えていただきたいと思います。

Aは「学内にいろいろな国の言葉で対応できる相談窓口をつくること」です。例えば私が留学生で、遠く離れた家族に何か問題があったときや、自分が精神的に参ったとき、あるいはある先生に対して不満が発生したとき、誰に相談すればよいのでしょうか？何語で相談すればよいのでしょうか？いま、私の研究室はちょっとした留学生の相談窓口になっています。深刻な悩みでなくても、授業が終わったあとにふらっと立ち寄って話ができる場所があるのはとても大事なことです。

Cは「ウェブサイトなどを通して、学内のこと、学習のことに関していろいろな国の言葉で情報を流すこと」です。言葉というのは決して英語だけではありません。アラビア語、英語、中国語など様々な言語をキャンパス内で目にすれば、留学生が過ごしやすい環境になるだけでなく、同時に日本人学生に対するグローバル教育にもつながります。

Hには「日本語教育の強化」という要素があります。日本語教育は本学では別科日本語研修課程中心に行われていますが、やはりこれを強化するためには各学科でも鍛えていくことが大事だと私は思います。なぜかという、言葉というものは生き物であって、毎日ある程度磨きをかけなければ、錆びてしまうからです。ある調査によれば、留学生の日本語能力は別科を修了し、大学に入学したあと、後退してしまうことが多いそうです。後退させないためには、別科だけではなく、学科でも対策を講じることが大切だと思います。

さて、皆さんはどれが一番重要だと考えますか？私自身は、Eの「学内の身近なところにいる国籍の違う人との交流」が最優先だと考えます。授業の中では多少ありますが、まだまだこうした交流の機会は非常に限られていると思います。

■アラブ人留学生からのイメージ

先ほどアラブ人留学生へのイメージを紹介しましたが、反対に留学生は皆さんにどのようなイメージを持っているのでしょうか。そっけない態度、冷たく目上の目線で言葉を発する、社交的でない、自分たちを信用していないのではないのか、特別な事情等を理解しない(または認めない)、型通りのルールしか言わない。これが留学生からの皆さんに対するひとつのイメージです。留学生が日本に来た最大の動機は、日本人と交流することです。交流して、学んで、何かを吸収したいと考えています。しかし、それができず孤立化してしまう学生もいます。そのような学生のための対策も進んでいますが、一度孤立化してしまうとなかなか難しい状況になってしまいます。ですから、学校の中では逃げ道、相談できる場所、特別な状況への支援というものが重要だと私は考えています。

その際、コミュニケーションの関係で特に気をつけていただきたいことがいくつかあります。まずは、人前で叱らないことです。相手が女性の場合は特に気をつけてください。人前というのは、たとえ友人の前であってもです。できるだけ個別に指導あるいは叱ってください。それから言葉についてですが、留学生は、フォーマルな、綺麗な日本語を習ってきました。だから、例えば「お前は・・・」というような言葉が使われると、「お前」という言葉にとっても敏感に反応します。日本人の場合は、恐れ多くてへりくだるというように表現されることがありますが、アラブ人の場合は、恐れることもなく、へりくだるつもりもありません。対等で、非常に主張が激しい。そして、対等に扱ってほしい。ですので、言葉や目線、強い口調など、細かいことかもしれませんが、相手の視点をつかんでもらえれば、指導もしやすくなると思います。

留学生は、どこかの大学に入ってもまれるだけで育

つということはありません。非常に丁寧に指導していかないと育たないものです。今日の講演を将来のヒントにいただければと思います。

■Q&A

皆さんが普段、アラブ、あるいはイスラム教徒の学生と接するうえで、不可解な行動が気になったり、フラストレーションを感じることもあるかもしれません。そういった疑問点があればここで答えたいと思います。一湘南校舎内の礼拝室に学生がよく礼拝にきています。

近くの廊下等では、特に男子学生について、残り香がするほど香水がきついのですが、なにかエチケットなどがあるのでしょうか。

特にアラビア半島では、香りをつけることが生活習慣になっています。地域によっては、例えば礼拝に向かうときに良い香りをつけるということもあります。香りが鼻につかないくらいつけるのではなく、相手に伝わるくらいつけます。日本人の感覚とはまったく正反対です。実は私も香りについては気付いており、学生にも注意はします。彼らは日本の文化を知らないだけです。日本人はそういうことがあっても何も言わずにいますが、私たちはもっと交流して、日本の文化を説明してあげると良いと思います。そのようにされて、本人が嫌がるということは全然ありません。

ただ、香りについて言えば、例えばヨーロッパはどうですか？フランス、イタリアあたりでも同じような習慣があります。他の文化でも同様に行っているのに、アラブの人だけが注目されるということは結構あると思います。アラブは西洋から文化を持ち込むことが実は多いのです。アラブ世界、イスラム世界というのは、閉鎖的な世界ではなく、むしろ相手を受け入れる土壌ができています。

一イスラム教は食事制限が厳しいと聞いていたのですが、イスラム教徒の方と食事をした際に、その方はあまり食べられないものがないように答えていました。イスラム教の食事に関する知識や、制限の厳しい人、あまりない人との違いを教えてください。

イスラム教にはハラールという言葉があり、最近ではコマーシャルベースで使われるようになってしまいましたが、もともとはシンプルに言う「体に悪くないものを食べる」という意味です。お酒はイスラムの考えでは体に良くないものなので、そういう発想から禁止されています。それ以外では豚肉も食べません。しかし、例えばこうして海外にいてハラール食がない場合は、代用策として神の名前を唱えてから食べます。イスラム教は儀礼的なことに拘らない宗教で、基本的には代用策があります。例えば、礼拝の時間が来たのに礼拝できる場所がない場合、その場で座ったまま礼拝できます。あるいは、清めるものがない場合は、空気で清めることができま

す。何が大事かという、「その人がしたいか、したくないか」ということなのです。ですから、イメージされるような厳しい制限はありません。ただ日本では、多くの食品に豚肉由来のゼラチンが含まれるなど、この10年で豚系のものが非常に増えており、その点は食事に関して困ることで

このような制限がありますが、それを守るかどうかはその人と神との関係において決めることです。宗教は法律ではありません。その人が教えを守っていないのかもしれないし、信仰心の深い人ではないのかもしれない。なぜ日本人はその可能性が発想として出てこないのでしょうか？グローバルというのは、いろいろな人がいるということです。すべてをイスラム教徒、アラブ人、中東という大きな切り口で考えると、その人自身が見えなくなってしまいます。



参加者からのアンケートには、

- アラブの人達の考え方や思っていること、必要としていることが少しわかり、よい機会でした。会話の必要性を知ることもでき、これから実行していきたいと思えます。(教員)
 - 日本人の他の学生と同じように接するのは「平等」というけれど、留学生は日本で生まれたわけではないので、「特別」な配慮が必要というのも理解しました。(事務職員)
 - アラブ・イスラム圏の認識を考えるよい機会を得ました。グローバル化をより前進させるには、様々な文化を理解し、それぞれに適した対応を心がける必要があると感じました。(技術職員)
- などの感想が寄せられました。また、「他の地域についても、同様に、異文化理解・留学生対応について考える研修会を開催してほしい」という要望も多く寄せられました。

**FD・SD研修会を収録したDVDを
貸し出しています(学内のみ)**

問い合わせ先:教育支援センター教育支援課
shien@tsc.u-tokai.ac.jp

大学教育グローバル化短期集中教員研修プログラム 開催

本学では、教員のグローバル教育力強化を図ることを目的に、2012年度より、本学協定校であるオーストラリアのクイーンズランド大学の英語教育機関ICTEによる教員向け短期研修プログラム「Content and Language Integrated Learning (CLIL): Principles and Best Practice Program (内容言語統合型学習 - その原理と効果的実践に関するプログラム)」を実施しています。

2015年度は、2016年2月22日(月)～2月26日(金)に初心者向け、2016年2月29日(月)～3月4日(金)に過去受講者向けを開催し、参加者は初心者向け17名、過去受講者向け11名でした。

■CLILとは

CLILとは、小学校、中学校、高等学校、大学などで、数学、理科、芸術、ビジネスなどの科目を母語以外の言語で学ぶという教授法です。これは、1990年代頃からEUの言語政策の一環として始まりました。専門分野の内容を母語以外の言語で学ぶことにより、専門知識

CLILを用いることで期待できること

- 異文化コミュニケーション能力を高める
- 国際化に備える
- 異なる視点から科目内容を学ぶ機会を得る
- 第二言語で科目に特化した専門用語に触れる
- 第二言語の運用能力を高める
- オーラルコミュニケーション能力を向上させる
- 授業実践の方法と形態を多様化する
- 学習者のモチベーションを高める

など

と語学の習得を同時に目指したこの教授法は、学習者のモチベーションを高め、自立した学習者を育てる指導法として、現在はヨーロッパに限らず国際的に広がりつつあります。

■本研修プログラムの特徴

本研修プログラムでは、CLILの手法を用いた授業を

構成する3つの重要な柱として、「Content : 知識」「Language : 言語」「Learning Skills : 学習者の学ぶ能力」の各要素を学びます。それと同時に、研修プログラム自体がCLILのモデル授業のようになっており、受講生の立場からCLILの手法を体験することができます。

CLILでは学習者の興味のある分野を母語以外の言語で学ぶことで、専門知識と語学のどちらもを学習者が高いモチベーションで取り組むよう授業をデザインします。そこで用いられる様々な手法は、外国語で行う授業のみならず、日本語で行う通常の授業にも応用することができ、本研修参加者からは大変高い評価を得てきました。

■参加者から寄せられた感想

- CLILの内容が、よく分かって良かった。日本語で行う授業でも活かせるので、使っていきたい。
- 学生参加型の授業の具体的な組み立て方法などを知り、また自ら学ぶ側としてそれらを体験することができたことはとても良かった。
- 主に英語の授業を担当しているので、英語の授業で使えるさまざまなアクティビティやタスクを紹介していただいた点がとても良かった。



研修では、活発なグループワークが行われます。



研修最終日には、授業計画の発表や模擬授業が行われ、講師や他の参加者からのフィードバックを得ました。